

# 能取岬の氷瀑群

鶴来市街より15分の近郊、能取岬の東海岸にアイスクライミングの楽しめる氷瀑が9つ残っている。シーズンは1月初旬から3月初旬までで、3月中旬には毎年不可となる。アプローチは、能取岬入り口の1km手前、英岬キャンプ場入り口に車を置き、除雪されていない道を徒歩でスキーでキャンプ場に向かい、キャンプ場前の小川を渡り、夏道沿いに海岸に降りる。ここより南300mの間に3本、北の岸に向かって1.4kmの間に6本の氷瀑が残っている。どの氷も上部には良い支点となる立ち木がある。F1(オコジョの滝)以外は氷の完遂も良く、アイスクライマーが良く効くが、氷は硬く割れやすい。2月初旬に海が流氷に覆われるまでは、F7(オジロの滝)付近は満潮時に下部が波に洗われ、通過が困難になるので注意のこと。



## F1 (オコジョの滝) 40m 氷瀑

下部の6m(80度)を登り、10mの斜面を歩く。次の12mはカリフラワー状の氷で、確実な支点が取れないで気を付ける。カリフラワー状の氷にスリングをまわして支点を取ることもできる。ここが終わると右岸壁にレストポイントがある。最後の12m(90度)は綺麗な氷柱の集合体だが下部よりはアイスハーケンが効く。この滝は氷の状態が他の滝より比較にならないほど悪い。

知床・阿寒

## F3 (オノコ) 35m 氷瀑

下部20mは80度。上部15mはチムニー状の奥に落ちるツララ状の氷を登る。

30°

## F4 (クジラの滝) 40m 氷瀑

キャンプ場から海岸への降り口の小川から落ちる滝に懸かる氷瀑で、とても高感度がある。落ち口から懸垂下降でおりてもよい。下部10mはカリフラワー状の氷で、次の10mはつららの集合体(85度)。次の12mは垂直、一段あって最後の8mは直径2mの垂直な氷柱で、それを登ると落口である。1997年くじらが打ち上げられ、滝の目印となつたのでこの名前となった。



F1 (オコジョの滝)

## F5 (トッカリの滝) 20m 氷瀑

海岸岩壁中間までは雪面を登り取り付く。70度程度で、上部を横切る木をぐぐると傾斜はさらに緩くなる。上り切ってキャンプ場のフェンスに出る。



F4 (クジラの滝)

## F6 (3本柱の滝) 15m 氷瀑

海岸から雪面を登り、氷を10m程登り、滝の基部からのびる小尾根の立木にビレイを取る。3本の太い氷柱が直立に懸かり、氷柱の裏側は空洞となっていて通り抜け出来る。シーズン途中から右側2本は発達して一体となる。

### F7 (オジロの滝) 40m 水瀑

幅約15mあり、人数が多いときは3本平行して登ることもできる。キャンプ場下の海岸から北に見える岬状の岸壁の裏側にある。上昇気流を求めるオジロワシがこの滝の上部を舞うのをよく見ることが出来る。滝は下から13m (85度)、5m (90度)、2m (70度)、14m (85~90度)、最後は60度の氷雪壁を6m登って終了である。最下部は流氷のない満潮時には波に洗われるので注意をすること。

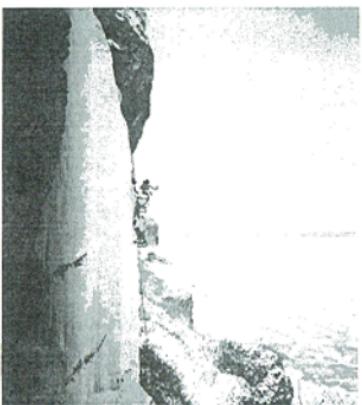


F7 (オジロの滝) 上空をオジロワシが飛ぶ

### F8 (オオワシの滝) 35m 水瀑

落口は幅2m程だがシーズン後半には左側に幅10m高さ15mの垂壁が出来る。

ルートは下から15m (85度)、5m (70度)、15m (75度) である。



F8 (オオワシの滝)

### F9 (ハヤブサの滝) 20m 水瀑

下部30度でのこぼこを6m登ると、上部14mのすっきりした垂直を楽しめる。幅6m程の垂壁が落ち口まで伸び、長方形のきれいな滝となっている。これより北に滝はない。